

日々の診療室から

金子 剛（保健管理センター 人間総合科学研究科 講師）

保健管理センターは大学会館・講堂前に存在する、一見1階建て、実は2階建ての小さな建物です。看護師さんたちがお手入れをしているきれいな花壇が目印です。私は同センターで主に内科診療を担当しておりますが、春に行われる健康診断はその大きな役割の一つです。今回はその中でのエピソードをご紹介します。



ある新入生らしき学生が私の診察の列に並びました。何気ない視線でしたが、親しみを抱かせるそんな視線が気になります。どこかで見たことある顔だな、と思いましたが、どこで出会ったかは思い出せません。さらにもう一度視線を確認しますと、今度は軽く会釈をしてくれます。ああ間違いない、彼はこちらを知っている。大急ぎで彼が何者か？ どういうつながりだったか考えました。が、そうこうしているうちに前の学生の診察が終わり、彼が近づいてきます。そしてちょっと控えめに診察カードを私の前に置きました。すると鉛筆で書かれた彼の名前は、すっーと私の記憶を呼び覚まし

た。そうだ！ 前に住んでいた松本という街で勉強を教えたことがあった彼でした。10年間という時間と何百キロも離れた空間、これらを一瞬にして飛び越えて、あのかわいかった彼の幼い姿と今私の目の前に立っている彼の姿が二重写しになりました。120cmくらいしかなかった身長は、今ではもう180cmくらい。見上げるような大きさです。顔には無精ひげがちらほらと。「久しぶりだねー」と、私。「おかげさまで、合格しました」と、彼。お互いに成長した姿で再会できたことを、共に喜び合うことが出来ました。小さな体験でしたが、こうした友との再会は自分の人生の道しるべのようで、心を温かく豊かにしてくれました。

翻ってキャンパスの外に目を向けてみますと、残忍で身勝手極まりない殺人事件に代表される人間軽視の風潮が吹き荒れています。また、あらゆるものが商品化されては消費される、底なし沼のような時代に我々は生きています。「分断」「差別」そして「孤独」といったキーワードが我がもの顔に振る舞う社会において、我々〈students〉が取るべき方途とは一体どのようなもののでしょうか？ その唯一確固たる策は、このキャンパスにおいて人生の道標となるべき師や友との出会いを求め、その関係を創りあげることだと、私は思います。いつでもこの広大なキャンパスでは新たな出会いが我々〈students〉を待っています。私もひとりのstudentの気持ちで、今日も一期一会の診察室へ向かいます。



ひとりで悩まず 保健管理センターへ

保健管理センター受付 029(853)2410

学生相談室受付 029(853)2415